
Do you eat another world sweets?

fool

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Do you eat another world's
weets?

【Nコード】

N7101Y

【作者名】

fool

【あらすじ】

「ごめ〜ん、おつことしちゃった」「死ねよ。」

ふざけた神様の失敗で異世界のお菓子を食べてしまった主人公（ ）

。王様はなんかキモいし王宮はごてごてだし！！

王子様は超真面目。じゃあなんでこの国はこんな状態になったのよ！？

・・・もう、逃げます。

国を変えていく庶民の味方主人公、最後のラスボスは誰になるのか。

旧：異世界のお菓子はいかが？

大幅に（？）書き直しての投稿です。

プロローグ（前書き）

旧「異世界のお菓子は〜」削除してしまい申し訳ありませんでした。

新たなスタートとして頑張りますので、どうぞ楽しんでいただければ幸いです。

プロローグ

余りにも質素な民家が見おろせるこの部屋の窓はこれでもかと金があしらわれており、

この部屋の人物の地位が高い事をものがたらせている。

そしてこの部屋の主、フェルノア魔法国国王。

モーセル・フェルナンデ・リトランダはポツリ、とつぶやいた。

「あの儀式を行う準備を始めた。」

その答えにすぐさま声が上がる。

「ですがっ、今までその呼び出しにこたえてくれたことはなかったハズです。」

また別の案を考えれば良いだけのことはありませんか。

どうか、それだけはおやめください！」

一人の青年は国王に必死に反対する

それはそのはず。

人間を召喚するというのだ

しかも他の世界からである。

「再び行うことは既に決定している。

ただ伝えただけであって、それを止める権限などお前にはない。

・・・席を外れよ。」

「・・・ハッ。」

不満がこもる返事を残し、青年は部屋を出る。

この世界は魔法により成っている。

そのため他の技術が進化することはなかった。

しかし、全員が使えるわけではなくなっていた。

昔、世界のはじまりの時、人々は皆が魔力を持っていた。
神から与えられ、精霊の力を借りるために。

しかし、次第に人々は精霊を敬わなくなっていた。
自分たちの魔力で精霊を操れるのだから、と。

長年のひどい扱いでボロボロになった精霊たち。
この世界の神は嘆き悲しみ、人々に魔力を与えなくなっていた。

「フェルノア魔法国」とは名ばかり、
この国の国王すら魔力は持っていないという現状である。

しかし長年魔法に頼って過ごしてきた習慣は消えず、なんの対策も
取らぬまま月日が流れた。

誰かが申し立てたところで王が、国が、動くことはなかった。

そして、今。

悲惨な国情はもう立て直すことができないほどまで極限の状態とな
った。

そして王は、考えたのだ。

他の世界から人を召喚し、

その別世界で進んでいる技術や案を聞き出し

この世界にはない、新しいものをつくり国の利益をあげる。

という案を。

なんというエゴな考えだと青年は怒った。

自分が、今まで申告してきたものは一体何だったのか。

なぜ、自分たちで解決しないのかと。

それを国王に言えるわけではないが、

人一人の人生を自分達の世界、いや国の利益が得たいが為に壊すなど・・・

今まで何もできなかった自分に腹が立つ。

でも、今それを言ってもどうしようもなかった。

青年はふと、一人の「人生を壊す」という罪悪感にさいなまれるのがイヤで、自分は必死で召喚を行うのを反対しているのかもしれない。そう思った。

一番エゴな考えをしているのは自分か・・・

そう考えると、自嘲的な笑いが漏れた。

だが、実際に起こるはずはないと心のどこかで確信していた。

なにせ、今まで何回も召喚してきたがすべてが成功しなかった。

人を呼び出すには呼び出す人間が召喚に自ら応じなければいけない、
という決まりがあるからだ。

強制的に呼び出すのは召喚の法則に反する。

まさかそんなことはしないだろう。

神の神経を逆なでするようなことを……。

「父は成功させる気らしいが。」

人間が召喚に応じるわけがない。

そもそも、本当に異世界が存在するのも怪しいではないか。

「だからなにも起こらない。きっと・・・」

青年・・・この国の第1王子リオナルド・フェルナнде・クードラ
ンカは自分に言い聞かせるように、

そうつぶやいた。

プロローグ（後書き）

誤字脱字ありましたらぜひお知らせを。

読んでくださりありがとうございます！！

これがそもそもの間違いだった。（前書き）

主人公ちょっとウザイときもあるかもしれませんが許してください・
・。

これがそもその間違いだった。

「ふああゝゝあ、お腹すいたなゝゝ」

あ、いきなり失礼しました。

絶賛欠伸中の私は「山中^{やまなか}麗夜^{れいや}」。

今は夏休み真っ最中。

しかも・・・両親が海外旅行に行つて家に一人きり！
というなんとも嬉しい快適ライフを満喫中。

彼氏を家に呼ぶ？
いると思つてんの？

友達は部活で忙しくて構ってくんないし。

まあ、宿題もやってないから最後の1週間はどーせ地獄だと思うけど。

なんとかなるはず。今までもそうだった、うん。

でも、まだ夏休みに入って4日目だし、大丈夫だ！

・・・一番面倒なのは家事だよねえ。

私、料理は好きんだけど洗濯とか嫌い。めんどくさい。

それでもぜんぶ終わらせて、
今はまったりクーラーつけてポッキー5種類を食べ比べるなんてやってたんだけど・・・。

・・・食べ終わっちゃった。

うん、何か別のお菓子を出そう、そうしよう。
甘い物って食べたしたら止まらないよね。

「あれ??」

テーブルの上に見知らぬ紙袋があるんですが。
・・・手書きのマッキーで「サルヌ」って書いてある。

「お菓子かな??」

ガサガサ・・・
袋を開けてみるとなんだかクッキーみたいなのが入っていた。

パクリ。一口かじってみると、やばいめっちゃウマー!うままま!

そのまま袋をひつつかんでリビングへ持っていく。

パクパクパク・・・

あつという間に私のお腹へと消えた。

「あゝ、おいしかった。

お母さんが置いていったのかな？帰ってきたら何処に売ってるか聞いてみよつと。」

マミーもやるねえ。

さて、小腹も満足したしそろそろお昼寝でもしようかな。

・・・それでは、おやすみなさい　　ミ

つて私、変な子みたい。
一人でなにしゃべってんだろ。

これがそもそもの間違いだった。（後書き）

ありがとうございます！！

プロローグと視点を変えてのお話です。

良くコロコロ変わりますので、読みにくいかもしれないです>><

何？神様って馬鹿でも出来るの？（前書き）

神様やらかしたー。一番の原因はこの神です。

何？神様って馬鹿でも出来るの？

暇。神様っていう仕事は暇。
でも管理はしっかりしなくちゃならない。

だから、最近は暇つぶしがわりにいろんな世界のお菓子を食べたり
するのが楽しみ

今日はあの魔法が発達した世界のぞいてみようかな。
ん？これはお仕事だよ、れっきとしたね。

お気に入りのお菓子を自分の脳内倉庫から探し出す。
今回は「サルヌ」にするか。
取り出すイメージで物体化する。
そして、あぐらをかいた姿勢のままサルヌの紙袋を3つほど脇において、完璧！

さあ、暇つぶし暇つぶし？

・・・って、まーたこの国の王サマは異世界から人を召喚させようとしてるよ。

できるわけないじゃん。空間曲がっちゃうのに・・・
しかも、この状態にしたのは自分らの勝手でしょ。

でもこの青年はイイ子だねえ。ちゃんと反対してるよ。

ぼりぼり。

うん、サル又はおいしい。でもちよつと喉が乾くのが困ったところだね。

この魔法の世界のお菓子って大体おいしいんだ、珍しくも。

もう一個覗き穴あけて、つと。こっちは科学が発達した世界。
この世界ではスナック菓子っていうのが好き。
ポトツ。「ん??」

なんか落ちたような気が・・・ってひと袋サル又がおちたーーーー！

どうしよう、こっちの世界じゃ存在しないお菓子なのに・・・

落ちた場所は、っと。

家の中だね、女の子が寝転がってる。最近の若モンは・・・

ってそうじゃない。どうしよう。

女の子見つけちゃってるっ！

食べちゃダメーーーーー！！

・・・食べちゃったよ

しょうがない、

魔法の世界のほうに飛ばさなきゃいけなくなった。

面倒な事になっちゃうなあ・・・

とりあえず説明しなくちゃ・・・。

何？神様って馬鹿でも出来るの？（後書き）

読んでくださりありがとうございます！

お菓子が屋根にぶつかることなく机に落ち着いた秘密は異世界だから・・・

でお願いします・・・

次は主人公視点でとうとう異世界へ行っちゃう・・・かも？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7101y/>

Do you eat another world sweets?

2011年11月21日11時35分発行